

科目名	成人看護学概論		対象学生・時期	1 年生・前期	
			講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①外部講師				
科目目標	1．成人期における対象の特徴を理解する 2．成人期における対象への看護の機能・役割を理解する 3．成人期における保健活動の意義、健康の保持増進を図る援助を理解する 4．健康障害時の健康レベルに応じた看護方法を理解する				
回数	主題		主な学習内容	授業形態	担当
1	成人期における看護の理解	成人期にある対象理解	1．成人の定義 2．成人の自覚	講義	①
2			3．成人の特徴 4．成人期の成長発達		
3			5．青年期の成長と発達課題の特徴 6．成人期の成長と発達課題の特徴		
4			7．壮年期・中年期の成長と発達課題の特徴		
5		健康を阻害する生活行動要因	1．健康な生活の保持・増進への看護 1) 生活習慣予防 2) ストレス 3) 職業に関連する健康障害		
6			2．健康診断の重要性と健康保持のための指導 3．健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み		
7		看護の対象、看護の視点	1．主体的な健康行動の促進 2．健康生活を支援する環境づくり 3．地域社会・職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護		
8		成人への対象のアプローチ	1．生活の中で健康行動をはぐくむ援助 1) 大人の健康行動の捉え方 2) 行動変容を促進する看護アプローチ 3) 看護におけるマネジメント 4) 看護実践における倫理的判断 5) 意思決定支援と家族支援		
9		成人を取り巻く生活からみた健康	1．生活の視点からみた成人の健康 2．成人期の健康観 3．健康教育 1) セルフマネジメント		

			2) ペタゴジー・アンドラゴジー 3) エンパワーメントエデュケーション		
10	健康レベル (経過別) に応じた看護	健康生活の急激な 破綻から回復を促 す看護	1. 急性期の概念および看護の概要 2. 生命の危機状態 3. 急激な健康破綻をきたした人の看護 4. 健康状態が急激に変化する対象の 身体的・心理的・社会的特徴		
11			5. 回復期の概念および看護の概要 6. リハビリテーションの概念および 看護の概要 7. 社会復帰に向けた看護の概要		
12		慢性病との共存を 支える看護	1. 慢性期の概念および看護の概要 1) 慢性期の健康状態とは 2) 慢性的経過をたどる対象の精神的・ 社会的特徴 3) セルフコントロールへの援助 4) 慢性期の感懐と憎悪		
13		人生の最期の時を 支える看護	1. 終末期の概念および看護の概要 1) 人間にとっての死 2) 全人的苦痛 3) 意思決定支援と看護師の役割		
14			4) アドバンスケアプランニング 5) 臨終時の看護（死後の処置を含む）		
15		単位認定試験（45分） まとめ			
評価方法	筆記試験				
使用テキスト	・成人看護学1 成人看護学概論 メディカ出版				
備考	<参考文献> ・国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会 ・根拠がわかる症状別看護過程 南江堂				

科目名	成人看護方法論		対象学生・時期	1年生・後期	
			時間数（単位）	30時間（1）	
講師名	①看護師 ②外部講師 ③外部講師 ④外部講師				
科目目標	1．栄養摂取・消化・吸収・排泄機能に障害を持つ成人とその家族への看護を理解する 2．内分泌機能に障害を持つ成人とその家族への看護を理解する 3．代謝機能に障害を持つ成人とその家族への看護を理解する 4．排泄機能に障害をもつ成人及びその家族への看護を理解する 5．生殖機能に障害をもつ成人とその家族への看護を理解する 6．血液・造血系に障害をもつ成人とその家族への看護を理解する 7．免疫機能に障害をもつ成人とその家族への看護を理解する				
回数	主題		主な学習内容	授業形態	担当
1	栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護	消化機能障害のある対象と看護の役割	1．消化器疾患患者の看護 1) 看護の基本 （1）消化器疾患と看護の役割 2) 主な症状に対する看護 （1）食欲不振 （2）嚥下障害 （3）悪心・嘔吐 （4）吐血・下血 （5）腹痛 （6）腹部膨満 （7）下痢 （8）便秘 3) 消化機能障害検査を受ける対象の看護 （1）造影検査 （2）内視鏡検査 （3）肝生検 （4）肝シンチグラフィ （5）腹部超音波検査 4) 消化機能障害の治療・処置を受ける対象の看護 （1）薬物療法 （2）化学療法 （3）栄養・食事療法 （4）放射線療法 （5）内視鏡手術 （6）開腹術	講義	①
		消化機能障害の主な検査・治療・処置に伴う看護			

2		主な疾患と看護 ①	1. 食道癌患者の看護 1) 食道癌とは 2) 症状 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) 食道切除・食道再建術 (2) 術後合併症 2. 胃癌患者の看護 1) 胃癌とは 2) 症状 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) ヘリコバクター・ピロリ感染症 の検査と治療 (2) 逆流性食道炎 (3) ダンピング症候群 (4) 胃瘻・腸瘻 (5) 食事指導	講義	①
3		主な疾患と看護 ②	1. 結腸癌患者の看護 1) 大腸癌とは 2) 症状 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) 便潜血検査 (2) 注腸造影検査 2. 直腸癌患者の看護 1) 直腸癌とは 2) 症状 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) 人工肛門 (具体的な看護は別枠 4 時間)		
4		主な疾患と看護 ③	1. 肝臓癌患者の看護 1) 肝臓癌とは 2) 症状 (1) 腹水 (2) 黄疸 (3) 肝性昏睡 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) 肝生検 (2) 腹腔穿刺 (3) 胆管ドレナージ (4) 肝動脈塞栓術 (TAE) (5) 肝動脈化学塞栓療法 (TACE) (6) 食道静脈瘤内視鏡的治療		

5		創傷管理	1. 創傷のメカニズム 1) 創傷とは 2) 創傷の治癒過程 (1)血液凝固期 (2)炎症期 (3)増殖期 (4)成熟期 3) 一次治癒、二次治癒 4) 創傷の処置と看護 (1)創傷治癒を遅延させる因子 (2)創傷治癒を促進させる因子	講義	②
		褥瘡と看護	1. 褥瘡発生の要因と好発部位 2. 褥瘡の危険因子の評価 (ブレーデンスケール) 3. 褥瘡予防 4. スキンケア 5. デブリードマン (壊死組織の除去) 6. 褥瘡の分類 (DESIGN-R)		
6		ストマー造設 患者の看護	1. ストマー造設前の看護 1) ストマーサイトマーキング 2. ストマー増設後の看護 1) ストマーの状態の観察 2) ストマー周囲のスキンケア 3) ストマー装具の選択 4) ストマー装具支援のセルフケア指導 5) 合併症予防 6) ストマー造設後の日常生活指導 7) 社会保障の活用 8) サポート体制 (患者会の紹介)		
7	内分泌・代謝機能に障害のある対象の看護	内分泌疾患をもつ対象の看護	1. 甲状腺疾患患者の看護 1) バセドウ病患者の看護 (1)原因 (2)症状 ①メルセブルグの3徴候 (甲状腺腫・眼球突出・頻脈) ②甲状腺クリーゼ (3)主な検査・治療・処置に伴う看護 ①ホルモン血中・尿中濃度測定 ②薬物療法 ③副作用への対応 (無顆粒球症)	講義	③

			④放射性ヨウ素 (^{131}I) 内用療法 (アイソトープ治療) における看護 ⑤手術療法 2) 甲状腺機能低下症 (橋本病) 患者の看護 (1) 原因 (2) 症状 ①徐脈②嚥声③粘液水腫④無気力 (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ①甲状腺ホルモン補充 ②服薬管理	講義	③
8		代謝性疾患をもつ対象の看護	1. 糖尿病患者の看護 1) 糖尿病とは 2) 症状 ①高血糖症状 ②低血糖症状 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ①糖負荷試験 (75gOGTT) ②HbA1c ③血糖自己測定 (SMBG) ④持続血糖モニター ⑤食事療法 ⑥運動療法 ⑦インスリン療法を行う患者の看護 ⑧糖尿病の合併症と看護 ・三大合併症 (網膜症・腎症・神経障害) ・糖尿病性昏睡		
9	排泄機能に障害のある対象の看護	主な疾患と看護 ①	1. 慢性腎不全・慢性腎臓病 (CKD) 患者の看護 1) 慢性腎不全・慢性腎臓病 (CKD) とは 2) 慢性腎臓病 (CKD) の分類 3) 症状 (1)浮腫 (2)代謝性アシドーシス (3)腎性貧血 (4)尿毒症 4) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1)血液検査 (2)尿検査 (3)超音波検査 (4)腎生検 (5)透析療法 ①血液透析 ②腹膜透析		

			(6)腎移植 (7)食事療法 (8)自己管理に対する支援	講義	③
10		主な疾患と看護 ②	1. 前立腺癌患者の看護 1) 前立腺癌とは 2) 症状 (1)排尿困難(2)血尿 (3)膀胱刺激症状 (4)溢流性尿失禁 3) 検査・治療・処置に伴う看護 (1)前立腺特異抗原 (PSA) 測定 (2)直腸診 (3)経腸的超音波検査 (TRUS) (4)手術療法 (5)放射線療法 (6)ホルモン療法 (7)自己管理への支援 (自己注射など) 2. 膀胱癌患者の看護 1) 膀胱癌とは 2) 症状 (1)血尿 (無症候性肉眼的血尿) (2)膀胱刺激症状 3) 検査・治療・処置に伴う看護 (1)膀胱鏡検査 (2)腹部超音波検査 (3)手術療法 ①経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT) ②膀胱全摘術+尿路変向術(回腸導 管増設術) (4)退院後の生活支援		
11	生殖機能に障害のある対象の看護	疾患をもつ対象 の看護①	1. 子宮筋腫患者の看護 1) 子宮筋腫とは 2) 症状 (1)過多月経 (2)月経困難症 (3)不性器出血 (4)貧血 (5)圧迫症状(頻尿、便秘、腫瘤感) 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1)内診 (2)外診 (3)超音波検査		

			(4)子宮鏡下子宮筋腫摘出術 (TCR) (5)ホルモン療法 2. 子宮癌患者の看護 1) 子宮頸癌患者の看護 (1)子宮頸がんとは (2)原因 (3)症状 ①帯下の増量②不正出血 (接触出血) (4)主な検査・治療・処置に伴う看護 ①コルポスコピー ②手術療法と看護 ③放射線療法 ④化学療法 ⑤予防ワクチン 2) 子宮体癌患者の看護 (1)子宮体癌とは (2)原因 (3)症状 ①不正性器出血 ②過多月経 ③シンプソン徴候 (陣痛様の下腹痛) (4)主な検査・治療・処置に伴う看護 ①細胞診 (子宮内膜搔爬) ②手術療法 ③放射線療法 ④化学療法 ⑤ホルモン療法	講義	③
12		疾患をもつ対象の看護②	1. 卵巣腫瘍患者の看護 1) 卵巣腫瘍とは (1)卵巣腫瘍の分類 2) 原因 3) 症状 (1) 腹部膨満感 (2) 排尿・排便障害 (3) 茎捻転 (4) 急性腹症 4) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1)手術療法 (2)化学療法 3. 乳癌患者の看護 1) 乳癌とは 2) 原因 3) 症状 (1) しこり (2) 異常分泌 (3) 乳房痛 (4) 皮膚変化 (5) 腋窩リンパ部の腫大 4) 検査・治療・処置に伴う看護 (1)自己検診 (2)問診 (3)マンモグラフィ (4)針生検 (5)手術療法		

			①乳房温存手術 ②乳房切断術 (6)リハビリ (7)リンパ浮腫 (8)ボディイメージの受容に関する 支援	講義	③
13	造血 機能障害のある 対象の看護	血液・造血機能 疾患患者の看護	1. 看護の基本 1) 血球異常の病態と全身への影響 2) 血液検査と全身の臓器との関係 2. 再生不良性貧血患者の看護 1) 再生不良性貧血とは 2) 原因 3) 症状 (1) 貧血 (2) 感染 (易感染症) (3) 出血傾向 4) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1)血液検査 (2)輸血療法 (3)免疫抑制療法 (4)骨髄移植	講義	④
14			3. 急性骨髄性白血病患者の看護 1) 急性骨髄性白血病とは 2) 原因 3) 症状 ①発熱②易感染症③貧血 4) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1)脊髄穿刺 (2)化学療法 (3)造血幹細胞移植 (4)治療による副作用と看護 ①移植片対宿主病 (GVHD) ②脱毛 (ボディイメージの変化) (5)心理的サポート (6)自己管理 4. 悪性リンパ腫患者の看護 1) 原因 2) 症状 (1)リンパ節腫瘍 (無痛性、弾性硬) (2)発熱 (3)盗汗 (4)体重減少 (5)上大静脈圧迫症状 (上肢の浮腫、 呼吸困難) (6)下大静脈圧迫症状 (下肢の浮腫) 3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1)血液検査 (2)生検 (3)化学療法		

15	免疫機能に障害のある対象の看護	疾患をもつ対象の看護①	1. 膠原病患者の看護 1) 関節リウマチ (RA) 患者の看護 (1) 原因 (2) 症状 ① 関節の腫瘍 ② 朝のこわばり ③ 疼痛 ④ 関節症状 (ボタン穴変形、スワンネック変形、尺側偏位) (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ① 血液検査 (CRP、ESR、RF、抗CCP抗体) ② 関節液検査 ③ 基礎療法 (安静・保温・栄養) ④ 薬物療法 (抗リウマチ薬と副作用) ⑤ リハビリ 2) 全身エリテマトーデス (SLE) 患者の看護 (1) 原因 (2) 症状 ① 蝶形紅斑 ② 腎症状 (ループス腎炎) ③ 中枢神経性ループス (CNSループス) (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ① ステロイドパルス療法 ② 免疫抑制薬 ③ 服薬管理 ④ 感染予防行動 3) シェーグレン症候群 (1) 原因 (2) 症状 ① 乾燥症状 (ドライアイ、ドライマウス) ② 関節炎 (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ① シルマー試験 ② ガム試験 ③ 点眼 ④ 水分摂取	講義	④
----	-----------------	-------------	---	----	---

		疾患をもつ対象 の看護②	1. アレルギー患者の看護 1) アレルギーとは 2) 患者の特徴と看護の役割 3) アレルギー症状に対する看護 (1) 感覚器症状 (花粉症、アレルギー性鼻炎) ①眼 (充血、かゆみ、流涙) ②鼻 (鼻汁、鼻閉、くしゃみ) (2) 消化器症状 (食物アレルギー、薬物アレルギー) (3) 皮膚症状 (アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎) ①かゆみ ②発疹 ③浮腫 4) アレルギー検査を受ける患者の看護 (1) 血液検査 (2) 皮膚テスト 5) アレルギー治療を受ける患者の看護 (1) 減感作療法 (2) ステロイド療法 6) アレルギー疾患をもつ患者の看護 (1) スキンケア (2) 服薬管理 (3) 予防のための看護 (4) アナフィラキシー患者の看護 ①早期発見 ②初期治療、救命救急処置 ③再発予防	講義	④
※ 時間外で実施	単位認定試験 (45分)				
評価方法	筆記試験				
使用テキスト	・ 疾患と看護 3 消化器 メディカ出版 ・ 疾患と看護 4 血液／アレルギー・膠原病／感染症 メディカ出版 ・ 疾患と看護 8 腎／泌尿器／内分泌・代謝 メディカ出版 ・ 疾患と治療 9 女性生殖器 メディカ出版				
備考					

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	成人看護学演習		対象学生・時期	1年生・後期	
			講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 成人期を対象とした看護過程の展開ができる 2. 成人期の看護に必要な看護技術を習得する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	看護過程の展開 手術を受ける肺がん 患者の看護過程 （急性～回復期）	1. 授業オリエンテーション 2. 肺がん術後患者の事例提示 3. ボディチャートの作成		講義 個人ワーク	①
2		3. ボディチャートの作成		個人ワーク	
3		3. ボディチャートの共有		講義 グループワーク	
4		4. 肺がん術後患者のアセスメントの ポイント 1) 術前・術中のアセスメント 2) 術後のアセスメント （1）手術侵襲と生体の反応 （2）創傷治癒		講義	
5		5. 肺がん術後患者のアセスメント		個人ワーク	
6		5. 肺がん術後患者のアセスメント		個人ワーク	
7		5. 肺がん術後患者のアセスメントの 共有		グループワーク 講義	
8		7. 肺がん術後患者の看護問題・優先 順位		個人ワーク	
9		7. 肺がん術後患者の看護問題・優先 順位の共有		グループワーク 講義	
10		8. 肺がん術後患者の看護計画		個人ワーク	
11		8. 肺がん術後患者の看護計画の共有		グループワーク 講義	
12		9. 肺がん術後患者の看護技術 1) 心電図 2) パルスオキシメーター 3) 輸液・シリンジポンプ 4) 酸素療法 5) 体位ドレナージ		グループワーク シミュレーション	
13					
14					
15	まとめ	10. 看護過程・看護技術演習のまとめ		グループワーク 講義	

評価方法	課題
使用テキスト	・成人看護学４ 周術期看護 メディカ出版 ・疾患と看護１ 呼吸器 メディカ出版 ・基礎看護学（２） 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・基礎看護学（３） 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 ・看護診断ハンドブック 第１２版 医学書院 ・根拠がわかる症状別看護過程 南江堂
備考	

実習科目	成人看護学実習	対象学生・時期	1 年生・後期
		講義時間（単位）	90時間（2）
実習目的	成人期の対象の健康障害及び経過に特徴的な看護を成人期の発達段階上の特徴に関連づけ健康を維持・増進し自立した生活をするための援助について学ぶ。主に手術や慢性疾患の急性転化から回復過程をたどる対象の看護を通して学ぶ。		
実習目標および内容			
1．成人期にある対象の特徴が理解できる。 1）成人期にある対象の発達段階・発達課題が述べられる。 2）対象の入院までの経過について述べられる。 3）対象の病態・検査・治療の目的、身体への影響が述べられる。 4）入院による対象の精神的側面への影響について述べられる。 5）入院による対象の社会的側面への影響について述べられる。 2．対象の回復の促進、合併症予防、苦痛を緩和するための援助ができる。 1）対象に予測される合併症が述べられる。 2）対象の反応を確認しながら安全・安楽を考慮して援助ができる。 3）対象の合併症と二次的障害を予防するための援助ができる。 4）対象の苦痛を緩和するための援助ができる。 5）生体機能の回復に沿って自立に向けた援助ができる。 6）生活環境を整えるための援助ができる。 3．対象の社会復帰に向けた援助ができる。 1）残存機能をいかした日常生活援助ができる。 2）自己管理へ向けての指導の必要性が述べられる。 3）対象と円滑なコミュニケーションがとれる。 4）自己管理に対する対象の思いを受けとめ援助できる。 5）退院後の暮らしを視野に入れた指導内容を考え指導ができる。 4．対象を取り巻く保健医療福祉チームの連携と看護師の役割が理解できる。 1）他部署・他職種との協働の実際について述べられる。 2）チーム医療における看護師の役割が述べられる。 5．看護実践の振り返りを通して自己の課題を明確にして改善できる。 1）個人およびチームと良好な人間関係を築くことができる。 2）主体的・効果的に学習できる。			
評価方法	評価表による評価		